

20日 火曜

伝道者の書



7:15 私はこの空しい人生において、すべてのことを見てきた。正しい人が正しいのに滅び、悪しき者が悪を行う中で長生きすることがある。

7:16 あなたは正しすぎてはならない。自分を知恵のありすぎる者としてはならない。なぜ、あなたは自分を滅ぼそうとするのか。

7:17 あなたは悪すぎではいけない。愚かであってはいけない。時が来ないのに、なぜ死のうとするのか。

7:18 一つをつかみ、もう一つを手放さないのがよい。神を恐れる者は、この両方を持って出て行く。

7:19 知恵は町の十人の権力者よりも、知恵のある者を力づける。

7:20 この地上に、正しい人は一人もない。善を行い、罪に陥ることのない人は。

7:21 また、人の語ることをいちいち心に留めてはならない。しもべがあなたをののしるのを聞かないようにするために。

7:22 あなた自身が他人を何度ものしったことを、あなたの心は知っているのだから。

7:23 私は、これらの一切を知恵によって試みた。私は言った。「私は知恵のある者になりたい」と。しかし、それは私には遠く及ばないことだった。

7:24 今までにあったことは、遠く、とても深い。だれがそれを見極めることができるだろうか。

7:25 私は心を転じて、知恵と道理を学び、探し出し、探し求めた。愚かさの悪と、狂気の愚かさを知ろうとした。

7:26 私は、女が死よりも苦々しいことに気が

ついた。女は罫であり、その心は網、その手は、かせである。神に良しとされる者は女から逃れるが、罪に陥る者は女に捕らえられる。

7:27 伝道者は言う。見よ。私が道理を見出そうとして、一つ一つに当たり、見出したことは次のとおりである。

7:28 私のたましいは、なおも探し求めたが、見出すことはなかった。私は千人のうちに、一人の男を見出したが、そのすべてのうちに、一人の女も見出さなかった。

7:29 私が見出した次のことだけに目を留めよ。神は人を真っ直ぐな者に造られたが、人は多くの理屈を探し求めたということだ。

「正しすぎてはならない」とあるのは、正しいと自分が思い込んでいることに固執してはならないという意味です。人間の正義感には神に至ることはできず、また「自身も他人をのろったこと」があるからです。人生を深く考えると、人間の理解や判断では行き詰ってしまうことがわかります。

著者のソロモンのように全てを極めた者でも、「なおも探し求めているが、見いださない。」というのです。主の存在を、知恵という分野でも認めて、主の前に謙遜であり続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

